

日刊 動労千葉

83. 9. 22
No. 1449

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七三（二二）七二〇七

座談会 三里塚・ジェット闘争 五年間を振り返る

定期大会成功への職場討論の深化のために ④

分離独立して やっぱりよかった

（Aさん・新小岩・機関士・四七歳）

官公労は、労働運動の牽引車であった動労が今日みたいに右翼的に変質してしまった結果、非常な困難をかかえてきた。動労と鉄労が完全に当局側にとってまっ先に裏切り妥結する中で、国労と動労千葉だけでふんばってそれ以上の条件を引き出すということも、現実には大変な困難にみまわれるのも事実だ。

動労「本部」は、57・11、バス、ブルトレを裏切り、動乗勤改悪も既に全国戦

「反合三里塚」路線の勝利性

敵の急所をつくぬい

（本部）

今日の国鉄労働運動解体攻撃は、当局が、強くなったからかかってきているのではなく、全く反対に国家的破綻状態を何とか突破しようとの焦りと凶暴化の中で強行されているものです。だから全階級的な情勢から切り離れて職場内的な問題や力関係だけで闘っても、本質的な解決を引き出すことはできないんです。政治的闘いとこの結合の中で政府権力、国鉄当局を追いつめ、その最も急所をつく

かたちで打倒していくというふうな闘いが決定的となってきたらと思うのです。そういう視点から、日々職場生産点で反合や権利・要求闘争をたたかっているわれわれが、全力をつくして三里塚を頂点とする反戦・反核闘争をそれを突破するものとしてとりくんできたし、又、中江選挙闘争をとりくみ、反動中曽根内閣を打倒する広範な地域住民闘争を国鉄労働運動と固く結合して闘いぬいてきたわけです。この立場というか路線をわれわれは「国鉄反合三里塚」闘争路線として創り出し、豊富化してきました。八〇年代を勝利する自前の労働運動を創り出していくんだということは、ここに核心があるということです。

動労革マルの粉碎・一掃が前進へのカギ

それともう一つ決定的に重要なことは、政府・国鉄当局は、いわゆる「臨調」行革」攻撃の柱として、国鉄労働運動の解体を狙って攻撃をかけてきているわけですが、そのポイントをなす職場支配権を、当局の側に奪還しようとしていること、それを、職場規律の厳正をタテにしておし通そうとしていること、そして、それを動労「本部」革マルを先兵にとりこみ、積極的に育成し使いこなしながら、動労千葉や国労等戦闘的国鉄労働運動に襲いかかってくるという構造になっていること、これが、当局の先兵になり下って「闘うな」もっと働こう」と絶叫する動労「本部」革マル、闘う労働者を権力や当局にタレこみ、告訴するという労働者階級の敵を徹底的に粉碎して全ての労働戦線から一掃していくことなしに、これからの労働運動は歩みも前進できないということをはっきりと確認できると思います。

（司会）
本日の座談会を通じて職場の生の意見を出し合ってもらい中で、わが三里塚、

確信と団結うち固めた 分離独立の過程

（Hさん・木更津・気運士・四一歳）

敵が国鉄労働運動破壊に焦点をあてて攻撃してきていることを、組合員が今どう受けとめているかという点が現在非常に重要だと思う。いままで、動労千葉は本部も支部も組合が強くて、対当局との力関係ではいわば、ぬるま湯でできているから、これからの本格的な攻撃をまだまだ肌で感じていない人も多い。自分でも反撃にたち上れる体制を職場のすみずみからどうつくるかだと思ふ。いわば、今は、熱湯をぶっかけてでも、いかに自らをきたえ上げていくか、ということだと思ふ。



1979年4月21日、新小岩支部結成大会のたけにおしあけてきた「本部」動員者650名は大会会場におしあける一帯で、支部組合事務所のカギを金ノコで切り、ドアとはずし、内部を荒し、書類、私物まで盗み去った。